

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次） 園芸学研究科環境園芸学専攻

1. 博士前期課程の学位の英語名称は、学位ごとにそれぞれ異なるのに対し、博士後期課程の英語名称は、すべての学位で同様であるため、博士後期課程の学位の英語名称の国際通用性について、説明すること。《D》・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 博士前期課程のランドスケープ学コースにおいて、学位論文等の審査における特定の課題についての研究成果として制作作品を認める計画であるが、修士論文を作成するか、特定の課題についての研究の成果を作成するかを選択をいつ行うか不明確であるため、説明すること。《M》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
3. 主指導教員・副指導教員の決定の時期等が不明確であるため、説明すること。《MD共通》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
4. 改組の前後において、博士前期課程、博士後期課程の各コースの教育内容がどのように変更されたのか不明確であるため、明確に説明すること。《MD共通》・・・・・・ 7

(意見) 園芸学研究科環境園芸学専攻

1. 博士前期課程の学位の英語名称は、学位ごとにそれぞれ異なるのに対し、博士後期課程の英語名称は、すべての学位で同様であるため、博士後期課程の学位の英語名称の国際通用性について、説明すること。《D》

(対応)

「Doctor of Philosophy」のあとに学位を示す専攻分野について括弧書きで明示し、一目でわかるものとした。検討するにあたっては、本学の状況を確認し、複数の部局において先行して同様の英文表記としていることから、すでに実績のあるこの表記を用いることとした。

(新旧対照表) 基本計画書 (1 ページ)

新	旧
学位又は称号	学位又は称号
博士 (農学) [Doctor of Philosophy (Agriculture)]	博士 (農学) [Doctor of Philosophy]
博士 (ランドスケープ学) [Doctor of Philosophy (Landscape Architecture)]	博士 (ランドスケープ学) [Doctor of Philosophy]
博士 (学術) [Doctor of Philosophy (Philosophy)]	博士 (学術) [Doctor of Philosophy]

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (12 ページ)

新	旧
(3) 博士後期課程 環境園芸学専攻 園芸科学コース 博士前期課程で培った園芸科学に関する専門性をさらに発展させ、学際的能力を身に付け、総合的視点から具体的課題を研究して、社会的ならびに国際的なリーダーシップを発揮できる人材を養成する。 授与する学位は、原則として博士 (農学) とするが、本学研究科・学府の関連分野または専攻内 2 コースの複合分野にまたがって 2 単位以上を学際的に履修し、研究テーマにも学際性が認められ、かつ経営・経済	(3) 博士後期課程 環境園芸学専攻 園芸科学コース 博士前期課程で培った園芸科学に関する専門性をさらに発展させ、学際的能力を身に付け、総合的視点から具体的課題を研究して、社会的ならびに国際的なリーダーシップを発揮できる人材を養成する。 授与する学位は、原則として博士 (農学) とするが、本学研究科・学府の関連分野または専攻内 2 コースの複合分野にまたがって 2 単位以上を学際的に履修し、研究テーマにも学際性が認められ、かつ経営・経済

系科目を1単位以上履修している場合には博士（学術）を授与できることとする。 <u>学位の国際通用性の観点から、学位の英文表記は Doctor of Philosophy とし、農学と学術の区別は括弧書きで入れ、博士（農学）： Doctor of Philosophy (Agriculture)、博士（学術）： Doctor of Philosophy (Philosophy) とする。</u> （４）博士後期課程 環境園芸学専攻 ランドスケープ学コース 博士前期課程で培ったランドスケープ学に関する専門性をさらに発展させ、学際的能力を身に付け、総合的視点から具体的課題を研究して、社会的ならびに国際的なリーダーシップを発揮できる人材を養成する。 授与する学位は、原則として博士（ランドスケープ学）とするが、本学研究科・学府の関連分野または専攻内2コースの複合分野にまたがって2単位以上を学際的に履修し、研究テーマにも学際性が認められ、かつ経営・経済系科目を1単位以上履修している場合には博士（学術）を授与できることとする。 <u>学位の国際通用性の観点から、学位の英文表記は Doctor of Philosophy とし、ランドスケープ学と学術の区別は括弧書きで入れ、博士（ランドスケープ学）： Doctor of Philosophy (Landscape Architecture)、博士（学術）： Doctor of Philosophy (Philosophy) とする。</u>	系科目を1単位以上履修している場合には博士（学術）を授与できることとする。 学位の英文表記はそれぞれ、博士（農学）： Doctor of Philosophy、博士（学術）： Doctor of Philosophy とする。 （４）博士後期課程 環境園芸学専攻 ランドスケープ学コース 博士前期課程で培ったランドスケープ学に関する専門性をさらに発展させ、学際的能力を身に付け、総合的視点から具体的課題を研究して、社会的ならびに国際的なリーダーシップを発揮できる人材を養成する。 授与する学位は、原則として博士（ランドスケープ学）とするが、本学研究科・学府の関連分野または専攻内2コースの複合分野にまたがって2単位以上を学際的に履修し、研究テーマにも学際性が認められ、かつ経営・経済系科目を1単位以上履修している場合には博士（学術）を授与できることとする。 学位の英文表記はそれぞれ、博士（ランドスケープ学）： Doctor of Philosophy、博士（学術）： Doctor of Philosophy とする。
--	---

(意見)

2. 博士前期課程のランドスケープ学コースにおいて、学位論文等の審査における特定の課題についての研究成果として制作作品を認める計画であるが、修士論文を作成するのか、特定の課題についての研究の成果を作成するかの選択をいつ行うか不明

(対応)

ご意見を踏まえ、修士論文と特定の課題選択時期を本文中において明示することとした。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (27 ページ)

新	旧
6. 特定の課題についての研究成果の審査を行う場合 学位論文等の審査における特定の課題についての研究成果として認められるものは、 <u>博士前期課程</u> ランドスケープ学コースにおける、制作作品である。 制作作品は、特定の地域を対象地として環境形成を目的とする課題解決型の計画・設計提案がなされているもの、あるいは、環境計画・設計の理論やテーマに対する研究が空間構成作品により記述されているものとする。 制作作品で審査を受ける学生は、 <u>その選択を、博士前期課程初年度末の研究経過報告書の提出時に主指導教員とともに行う。その後、</u> 修士論文と同じ日程にて審査申請を行い、最終試験は、修士論文と同様の審査構成員により行われる。最終試験の時期に制作作品の公開展示発表を行い、口頭試問を行う。制作作品は、計画・設計提案がなされる地域の環境特性の調査分析や対象テーマの先行研究調査が学術的になされているか、提案される計画・設計手法とプロセスが論理的に提示されているか、その結果	6. 特定の課題についての研究成果の審査を行う場合 学位論文等の審査における特定の課題についての研究成果として認められるものは、ランドスケープ学コースにおける、制作作品である。 制作作品は、特定の地域を対象地として環境形成を目的とする課題解決型の計画・設計提案がなされているもの、あるいは、環境計画・設計の理論やテーマに対する研究が空間構成作品により記述されているものとする。 制作作品で審査を受ける学生は、修士論文と同じ日程にて審査申請を行い、最終試験は、修士論文と同様の審査構成員により行われる。最終試験の時期に制作作品の公開展示発表を行い、口頭試問を行う。制作作品は、計画・設計提案がなされる地域の環境特性の調査分析や対象テーマの先行研究調査が学術的になされているか、提案される計画・設計手法とプロセスが論理的に提示されているか、その結果としての提案が高次の意匠にまとめられているか、展示作品が専門的な表現方法を用いたプレゼン

としての提案が高次の意匠にまとめられているか、展示作品が専門的な表現方法を用いたプレゼンテーション技術を反映しているかの観点から審査され、高度な専門性と専門的な職能を担う能力を問う。	テーション技術を反映しているかの観点から審査され、高度な専門性と専門的な職能を担う能力を問う。
--	--

(意見)

3. 主指導教員・副指導教員の決定の時期等が不明確であるため、説明すること。《M
D共通》

(対応)

ご意見を踏まえ、主指導教員・副指導教員の決定の時期等を本文中において明示することとした。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (24 ページ)

新	旧
(2) 履修指導 本学では、学年を2ヶ月ごとの6学期に分け、原則として各学期で授業を完結させるターム制を導入している。新入生に対しては、入学式直後にガイダンスを行い、履修要項やシラバスを用いてカリキュラム編成の考え方・履修方法・学習計画・学習方法等を指導する。 本専攻では、博士前期課程・博士後期課程を問わず、それぞれの学生が将来の目標を明確にし、主体的に学修を進めていけるよう履修指導する。個々の学生の履修計画の指導は、特別研究を担当する主指導教員・副指導教員が行うが、それぞれの学生の資質や興味・関心を見極めながら適切に履修指導を行う。本専攻では、原則としてターム制を取っており、短期留学や研究活動の繁忙にも対応できるため、個々の学生の実情や学修目的に合わせて無理なく無駄なく履修が進められるよう、複数のスタッフにより十分に配慮しながら履修指導にあたる。<u>主指導教員は、学生が入学試験時に願書にて指名した教員を原則として充てるが、入学段階で改めて当該教員で適切であるかを確認する。入学月(4月:10月入学</u>	(2) 履修指導 本学では、学年を2ヶ月ごとの6学期に分け、原則として各学期で授業を完結させるターム制を導入している。新入生に対しては、入学式直後にガイダンスを行い、履修要項やシラバスを用いてカリキュラム編成の考え方・履修方法・学習計画・学習方法等を指導する。 本専攻では、博士前期課程・博士後期課程を問わず、それぞれの学生が将来の目標を明確にし、主体的に学修を進めていけるよう履修指導する。個々の学生の履修計画の指導は、特別研究を担当する主指導教員・副指導教員が行うが、それぞれの学生の資質や興味・関心を見極めながら適切に履修指導を行う。本専攻では、原則としてターム制を取っており、短期留学や研究活動の繁忙にも対応できるため、個々の学生の実情や学修目的に合わせて無理なく無駄なく履修が進められるよう、複数のスタッフにより十分に配慮しながら履修指導にあたる。

生は10月)の早い段階で主指導教員は学生と面談し、同月末日までに履修計画票を作成・提出させる。その際に副指導教員2名も決定する。なお、学術の学位を希望する学生の場合は、副指導教員のうち1名を研究テーマにふさわしい他分野の教員とし、より学際的な指導ができるよう配慮する。	
---	--

(意見)

4. 改組の前後において、博士前期課程、博士後期課程の各コースの教育内容がどのように変更されたのか不明確であるため、明確に説明すること。《MD共通》

(対応)

ご意見を踏まえて、改組前後の違いが分かるように資料1を修正した。また、設置の趣旨を記載した書類4ページに「ウ 旧課程と新課程の教育内容の違い」という項目を起こし、改組前後の教育内容の変更事項をまとめて説明した。新旧対照表に入らない表は外出しして示した。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類(4ページ)

新	旧
博士後期課程では、園芸科学コースと同様に、幅広い履修機会の提供とキャリアデザインを支援する体制を組む。	博士後期課程では、園芸科学コースと同様に、幅広い履修機会の提供とキャリアデザインを支援する体制を組む。
<u>ウ) 旧課程と新課程の教育内容の違い</u>	
<u>3. 教育課程の編成の考え方及び特色で詳述するが、旧課程と新課程の教育内容の違いを要約すると次の通りである。</u>	
<u>博士前期旧課程では、自然科学系・社会科学系・環境系と主に学問的性質によってコース分けされていたが、講義科目はほぼ自由選択であり、カリキュラムの自由度が高い一方で、自身の専門の位置付けが学生に十分に理解されない傾向があった。この問題の解決のために、新課程では、文理の枠にとらわれることなく、主に社会的な関連性から園芸科学とランドスケープ学の2コースに整理した。</u>	
<u>その上で、環境園芸学の普遍的教養の涵養とグローバル・コミュニケーション能力など高度専門技術者・研究者としての基盤的能力の育成を目的に、専攻共通基盤必修科目や同選択必修科目を設定した。また、コ</u>	

<u>ース共通の必修科目を設定し、学問の基本や所属コースと自身の専門の社会的・学問的位置付けを学生全員が体系的に理解できるよう工夫した。</u> <u>さらに、旧課程では専門でない学生と高度な専門性を求める学生が同じ講義科目を履修していたために、講義内容が平易なレベルに止まらざるを得ない傾向があった。そのため、専門性の高さによって選択必修科目と選択科目を整理し、前者では十分な予習復習を前提とした高度なレベルの内容を講義し、後者では学部から大学院への導入レベルの内容を講義することとした。これによって、大学院教育の専門性をより高度化するとともに、専門初習者や他大学・他学部からの進学生にもわかりやすい導入機会を与えることを目指した。</u> <u>特にランドスケープ学コースでは、実践的なプロジェクト演習を必修として、関連の講義科目と有機的に組み合わせた専門性の高いカリキュラムを組み、応用力の高いランドスケープエキスパートを養成し、新しい学位である修士（ランドスケープ学）を授与することとした。</u> <u>博士前期課程の改組前後の教育内容の主な変更事項＊</u> <u>博士後期課程では、環境園芸イノベーション能力の創出を新たに目標に置き、国際的な研究動向、実社会のニーズと開発動向を学生が把握し、研究企画力を開発できるよう、専攻共通で園芸グローバルセミナーとアカデミックライティングを、コースごとに産官学連携セミナーを設定した。また、博士前後期ともに、国際的な教育機会の充</u>	
--	--

実を図るとともに、他研究科・学府科目の履修を可能にし、新しい観点からイノベーションを開拓できる機会を充実させた。 博士後期旧課程では修了後の就職に課題があった。新課程では、キャリア育成サポートの充実を目標に掲げ、キャリア関連科目を充実させるとともに、研究指導教員とは別にチューターをおいて、対話型のキャリア育成サポートを行う。これによって、キャリアパスを描きながら、学生が主体的に学修と研究を展開できるようにした。 博士後期課程の改組前後の教育内容の主な変更事項**	
--	--

* 博士前期課程の改組前後の教育内容の主な変更事項

目的	改組前	改組後
環境園芸学の普遍的教養の涵養とグローバル・コミュニケーション能力など高度専門技術者・研究者としての基盤的能力の育成	・ 基盤科目なし ・ 選択科目として、生命環境倫理、ベンチャービジネス論、技術完成力。その他は、特別プログラム（英語プログラムや環境園芸エキスパートプログラム等）指定の基盤科目。	・ 専攻共通基盤科目（必修科目・選択必修科目）の設定 ・ 専攻共通必修科目：環境園芸学、研究方法と倫理 ・ 選択必修科目：アカデミックライティング、国際インターンシップ A・B・C、園芸グローバルセミナー、インターンシップ、国際環境園芸学、プロジェクトマネジメント概論、園芸学専門日本語 A・B
園芸科学の体系性と専門性の向上	・ 生物資源科学と食料資源経済学の 2 コース ・ 研究系科目（特別研究 I、特別演習 I）を除いて必修科目なし。 ・ 科目の専門性は一様	・ 園芸科学コースに統合 ・ コース必修科目の設定：遺伝資源利用学、園芸ゲノム情報論、先端園芸技術論 ・ 専門性の高い選択必修科目と大学院導入レベルの選択科目に整理

ランドスケープ学の体系性と専門性の向上	・ 緑地環境学コース ・ 研究系科目（特別研究Ⅰ、特別演習Ⅰ）を除いて必修科目なし。 ・ 科目の専門性は一様	・ プロジェクト演習を柱とした専門的カリキュラムに改変し、ランドスケープ学コースに改称して修士（ランドスケープ学）を授与 ・ コース必修科目の設定：ランドスケープ構造・機能論、ランドスケープ計画・意匠論、ランドスケーププロジェクト演習A・B ・ 専門性の高い選択必修科目と大学院導入レベルの選択科目に整理
---------------------	--	--

＊ ＊ 博士後期課程の改組前後の教育内容の主な変更事項

目的	改組前	改組後
環境園芸イノベーション能力の創出	・ 特別プログラム（環境園芸エキスパートプログラム）でマルチエキスパート演習・実習 ・ 他研究科・他学府科目の履修認めず	・ 専攻共通基盤選択科目の設定：アカデミックライティング、園芸グローバルセミナー ・ 各コースにおける産官学連携セミナーの設定：園芸産官学セミナー、ランドスケープ産官学セミナー ・ 博士（学術）希望者は他研究科科目・他学府科目の履修可能
キャリア育成サポートの充実	・ 専攻共通基盤科目として、ベンチャービジネス論、技術完成力	・ 専攻共通基盤科目の環境園芸技術マネジメント、環境園芸アントレプレナーシップのほかに、園芸科学コースに園芸産官学セミナーを、ランドスケープ学コースにランドスケープ産官学セミナーを開講。 ・ チューターによる個別サポート